



KEMENTERIAN  
PENDIDIKAN  
MALAYSIA

**KURIKULUM STANDARD SEKOLAH MENENGAH**

# **Bahasa Jepun**

**Dokumen Standard Kurikulum dan Pentaksiran**

## **Tingkatan 4 dan 5**





**KURIKULUM STANDARD SEKOLAH MENENGAH**

# **Bahasa Jepun**

**Dokumen Standard Kurikulum dan Pentaksiran**

**Tingkatan 4 dan 5**

Bahagian Pembangunan Kurikulum  
September 2018

Terbitan 2018

© Kementerian Pendidikan Malaysia

Hak Cipta Terpelihara. Tidak dibenarkan mengeluarkan mana-mana bahagian artikel, ilustrasi dan isi kandungan buku ini dalam apa jua bentuk dan dengan cara apa jua sama ada secara elektronik, fotokopi, mekanik, rakaman atau cara lain sebelum mendapat kebenaran bertulis daripada Pengarah, Bahagian Pembangunan Kurikulum, Kementerian Pendidikan Malaysia, Aras 4-8, Blok E9, Parcel E, Kompleks Pentadbiran Kerajaan Persekutuan, 62604 Putrajaya.

## 目次

Rukun Negara .....	v
Falsafah Pendidikan Negara .....	vii
Kurikulum Kebangsaan .....	ix
Kata Pengantar .....	xi
はじめに .....	1
目的 .....	2
目標 .....	2
中等学校のカリキュラムスタンダードの構成 .....	3
カリキュラムの内容 .....	4
21世紀型スキルと学習者像 .....	7
高次思考スキル .....	8
授業のストラテジー .....	9
教科横断的の要素 .....	10
授業の評価 .....	12
カリキュラムの構成 .....	13

4年の聞き話す .....	21
4年の読む .....	25
4年の書く .....	28
4年の芸術 .....	30
4年の文 .....	32
5年の聞き話す .....	37
5年の読む .....	41
5年の書く .....	44
5年の芸術 .....	46
5年の文法 .....	48
付録 .....	50
カリキュラムパネルメンバー .....	58



## **RUKUN NEGARA**

BAHAWASANYA Negara kita Malaysia mendukung cita-cita hendak:  
Mencapai perpaduan yang lebih erat dalam kalangan seluruh masyarakatnya;  
Memelihara satu cara hidup demokratik;  
Mencipta satu masyarakat yang adil di mana kemakmuran negara  
akan dapat dinikmati bersama secara adil dan saksama;  
Menjamin satu cara yang liberal terhadap tradisi-tradisi  
kebudayaannya yang kaya dan berbagai corak;  
Membina satu masyarakat progresif yang akan menggunakan  
sains dan teknologi moden;

MAKA KAMI, rakyat Malaysia, berikrar akan menumpukan seluruh tenaga dan usaha kami untuk mencapai cita-cita tersebut berdasarkan prinsip-prinsip yang berikut:

**KEPERCAYAAN KEPADA TUHAN  
KESETIAAN KEPADA RAJA DAN NEGARA  
KELUHURAN PERLEMBAGAAN  
KEDAULATAN UNDANG-UNDANG  
KESOPANAN DAN KESUSILAAN**



## 国の原則

私たちの国、マレーシアは次の目標を実践する。

全社会の完全な統合を達成する。生活において民主的な方法を維持する。

国の繁栄公正かつ平等に行われる公正な社会創造する。豊かで多様な文化的伝統にリベラルなアプローチを確保する。科学と近代的な技術を利用する進歩的社会的構築する。

私たちは、マレーシア人として、次の原則に基づいて、これらの目標を達成するためにすべての力と努力を尽くすことを固く誓います。

神への信仰

王と国のために忠実

憲法を支持

法の支配

礼儀と道徳



## **FALSAFAH PENDIDIKAN KEBANGSAAN**

“Pendidikan di Malaysia adalah suatu usaha berterusan ke arah lebih memperkembangkan potensi individu secara menyeluruh dan bersepadu untuk melahirkan insan yang seimbang dan harmonis dari segi intelek, rohani, emosi dan jasmani, berdasarkan kepercayaan dan kepatuhan kepada Tuhan. Usaha ini adalah bertujuan untuk melahirkan warganegara Malaysia yang berilmu pengetahuan, berketerampilan, berakhlak mulia, bertanggungjawab dan berkeupayaan mencapai kesejahteraan diri serta memberikan sumbangan terhadap keharmonian dan kemakmuran keluarga, masyarakat dan negara”

Sumber: Akta Pendidikan 1996 (Akta 550)

## 国の教育理念

“マレーシアにおける教育は、総合的且つ公平な方法で、個人の能力を飛躍的に伸ばすための努力を続けるものであり、それにより、知識面、精神面、情緒面、肉体面で調和のとれた、且つ、確固たる信念と信仰を持った個人を育てるものである。その目的は、知識に富み有能なマレーシア国民、高い道徳心を持つマレーシア国民、家庭、社会、国家の調和と向上に寄与する能力を持つのと同時に、個人としての資質を高める責任感と能力を持つ マレーシア国民を育てることである”

出典：教育法 1996 (Akta 550)

## DEFINISI KURIKULUM KEBANGSAAN

### 3. Kurikulum Kebangsaan

(1) Kurikulum Kebangsaan ialah suatu program pendidikan yang termasuk kurikulum dan kegiatan kokurikulum yang merangkumi semua pengetahuan, kemahiran, norma, nilai, unsur kebudayaan dan kepercayaan untuk membantu perkembangan seseorang murid dengan sepenuhnya dari segi jasmani, rohani, mental dan emosi serta untuk menanam dan mempertingkatkan nilai moral yang diingini dan untuk menyampaikan pengetahuan.

Sumber: Peraturan-Peraturan Pendidikan (Kurikulum Kebangsaan) 1997

[PU(A)531/97.]

## ナショナル カリキュラムの定義

### 3 ナショナル カリキュラム

(1) ナショナル カリキュラムは、カリキュラムや課外活動が含ま教育プログラムであり、物理的精神的、精神的、感情的な面でいっばいの瞳を開発するため、すべての知識、技能、規範、価値観、文化的要素や信念を含ん教育プログラムである。それに 所望の道徳的価値を高め、知識を渡すためである。

出典：規制教育（ナショナル カリキュラム）1997

[PU(A)531/97.]

## KATA PENGANTAR

Kurikulum Standard Sekolah Menengah (KSSM) yang dilaksanakan secara berperingkat mulai tahun 2017 akan menggantikan Kurikulum Bersepadu Sekolah Menengah (KBSM) yang mula dilaksanakan pada tahun 1989. KSSM digubal bagi memenuhi keperluan dasar baharu di bawah Pelan Pembangunan Pendidikan Malaysia (PPPM) 2013-2025 agar kualiti kurikulum yang dilaksanakan di sekolah menengah setanding dengan standard antarabangsa. Kurikulum berasaskan standard yang menjadi amalan antarabangsa telah dijelmakan dalam KSSM menerusi penggubalan Dokumen Standard Kurikulum dan Pentaksiran (DSKP) untuk semua mata pelajaran yang mengandungi Standard Kandungan, Standard Pembelajaran dan Standard Prestasi.

Usaha memasukkan standard pentaksiran di dalam dokumen kurikulum telah mengubah lanskap sejarah sejak Kurikulum Kebangsaan dilaksanakan di bawah Sistem Pendidikan Kebangsaan. Menerusinya murid dapat ditaksir secara berterusan untuk mengenal pasti tahap penguasaannya dalam sesuatu mata pelajaran, serta membolehkan guru membuat tindakan susulan bagi mempertingkatkan pencapaian murid.

DSKP yang dihasilkan juga telah menyepadukan enam tunjang Kerangka KSSM, mengintegrasikan pengetahuan, kemahiran dan nilai, serta memasukkan secara eksplisit Kemahiran Abad Ke-21 dan Kemahiran Berfikir Aras Tinggi (KBAT). Penyepaduan tersebut dilakukan untuk melahirkan insan seimbang dan harmonis dari segi intelek, rohani, emosi dan jasmani sebagaimana tuntutan Falsafah Pendidikan Kebangsaan.

Bagi menjayakan pelaksanaan KSSM, pengajaran dan pembelajaran guru perlu memberi penekanan kepada KBAT dengan memberi fokus kepada pendekatan Pembelajaran Berasaskan Inkuiri dan Pembelajaran Berasaskan Projek, supaya murid dapat menguasai kemahiran yang diperlukan dalam abad ke-21.

Kementerian Pendidikan Malaysia merakamkan setinggi-tinggi penghargaan dan ucapan terima kasih kepada semua pihak yang terlibat dalam penggubalan KSSM. Semoga pelaksanaan KSSM akan mencapai hasrat dan matlamat Sistem Pendidikan Kebangsaan.

**Dr. MOHAMED BIN ABU BAKAR**  
Timbalan Pengarah  
Bahagian Pembangunan Kurikulum  
Kementerian Pendidikan Malaysia



## はじめに

日本語は、「東方政策」に従い、1984年に、初めて外国語科目として全寮制中等学校に導入された。この政策は、短期間で日本を世界の主要な経済力と技術を持った大国へと発展させるのに重要な役割を果たした、日本の模範的な職業倫理に倣う重要性と必要性を評価したものであった。成功を勝ち取った日本の根本にある価値基準を、日本語の学習を通してマレーシア国民が理解し、評価することが期待される。更に、世界全体の中における、文化の多様性に関する知識面で、競争的な優位性を学習者に与えるであろう。

このシラバス [ドキュメントスタンダードカリキュラム (DSKP)] は、言語の基礎力を学習者が身につけることを目標として作成された。それにより、学習者は、この基礎を基に、コミュニケーション能力を習得し、言語を自己の開発、充実、将来の必要のために利用することができる。更に、それに伴う様々な知識を習得することによって、生徒は日本語学習を通じ、自己の文化

と日本の文化を観察し、有意義な比較をする機会を得られるであろう。そしてこれは多言語使用社会を目指す国の目標を促進するであろう。

## 目的

中等学校の日本語カリキュラムの目的は、学習者が、社会での相互関係を促進すると同時に、自己開発と知識習得のための言語でのコミュニケーション能力を習得することにある。

## 到達目標

日本語教育が終わった段階で、学習者は以下のことができるようになる。

1. 日本語の文字(ひらがな、カタカナ、一定数の漢字)を、認識し、発音し、表記する。
2. 簡単な日本語を聞き、応答する。
3. 簡単で適切な日本語を用い、質問や応答、自己の考えを明確に表明する。
4. 簡単な日本語で書かれた様々なテキストを読み、理解する。
5. 簡単な日本語で、自分の考えを書いて表明する。
6. 様々な分野に関する情報を得る。そして様々な聞き手に情

報を口頭または筆記で伝えることである。

7. 日本語でのコミュニケーションを効果的にするため、言語、非言語両面でのニュアンスを理解する。
8. 自身の文化と国家をよりよく理解、認識するために、マレーシアと日本の文化的な共通部分と差異を認識し、述べる。

日本語教育が終わった段階で、学習者は以下のことができるようになる。

#### 四年日本語教育:

1. 日本語の文字 (ひらがな、カタカナ、一定数の漢字)を、認識し、発音し、表記する。
2. 様々なジャンルのなかに、アイデアを読んだり、聞いたり、表現したりする。
3. さまざまな情報源から情報を入手し、推論を行い、口頭や書面による情報、アイデアや意見を提示する。
4. 口頭や書面で与えられた話題についてのアイデアを広げる。
5. 日本語でのコミュニケーションを効果的にするため、言語、非言語両面でのニュアンスを理解する。
6. 自身の文化と国家をよりよく理解、認識するために、マレーシアと日本の間の文化的な共通部分と差異を認識し、述べる。

#### 五年日本語教育:

1. 日本語の文字 (ひらがな、カタカナ、一定数の漢字)を、認識し、発音し、表記する。
2. 一般的な話題の会話をする。
3. さまざまなテキストを聞き、読み、理解する。
4. 読んだり見たり聞いたり話したりしたことについての思考、感情、意見を表現する。
5. 日本語でのコミュニケーションを効果的にするため、言語、非言語両面でのニュアンスを理解する。
6. 自身の文化と国家をよりよく理解、認識するために、マレーシアと日本の間の文化的な共通部分と差異を認識し、述べる。



## 中等学校のカリキュラムスタンダードの構成

中等学校のカリキュラムスタンダード（KSSM）は、六本の支柱に基づいて、知識面、精神面、情緒面、肉体面で調和の取れた、創造的、批判的、革新的な思考を持つ人間を育成するために作られた。六本の支柱は、知識やスキル、価値観などを表し、人的資本の開発の基礎となっている。六本の支柱というのは、「科学技術」、「コミュニケーション」、「精神的態度と価値観」、「人間性」、「自己開発」、「物理的および審美的な開発」の六つである。

支柱間の結束を反映するために、科目の内容をすべての支柱を考慮に入れて、起草する。支柱と支柱の間の結束はカリキュラムを実行する際に明らかにされるべきである（図1に参照）。

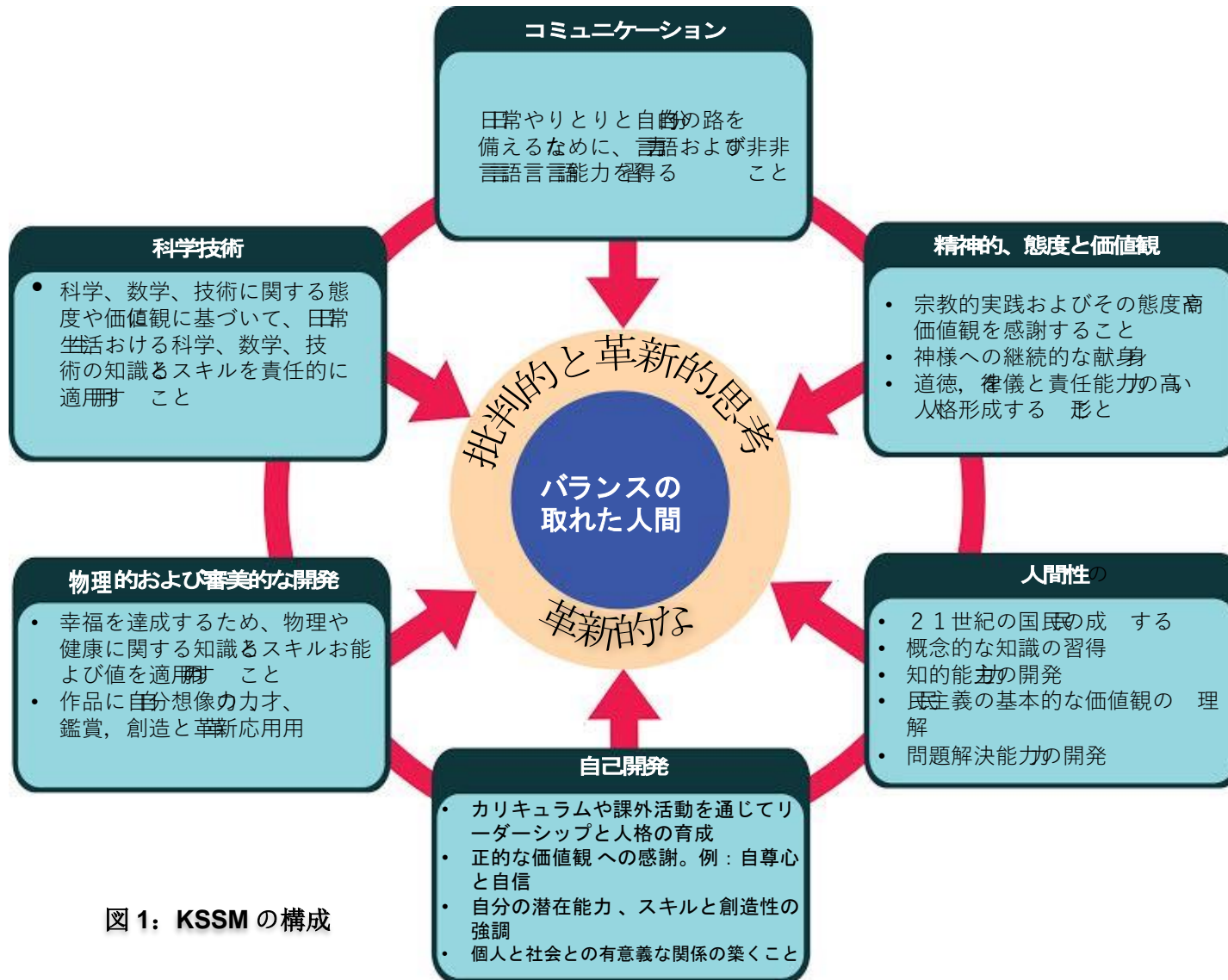


図 1: KSSM の構成

## カリキュラムの内容

カリキュラムの内容は、言語使用に関する三つの分野に分けられており、学習者が、口頭と表記の両面で、課題に当たり、目標を達成することを目的とする。

- ． 人間関係面での言語使用
- ． 情報面での言語使用
- ． 芸術面での言語使用

この三つの分野からは、有意義で目的を持った言語学習経験とプログラムのためのテーマとして、以下のものがあげられる（図2参照）。

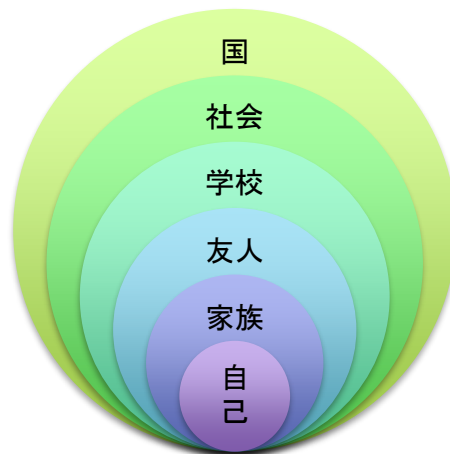


図2: テーマ

上記のテーマは、言語と話題が放射状に広がっていく形で教えられ学べるように構成されたものである。従って学習者は、言語能力を体系的に整理し、広げていくことが可能である。更にこれらのテーマを通して、学習者が社会問題や知的興味のあることについて考え、言語を使うべき社会的場面に適応することができるようになる。

この日本語 **DSKP** は、コミュニケーションをとる時、情報を得る時、テキストを読み理解する時、学習者の価値観、習慣、慣習の理解を助ける知識と異文化認識を習得する時など、ある一定の状況で使われる日本語に沿って作成されている。従って日本語の文字の早期習得と、日本の価値観や習慣の常時適切な導入とが重視される。

### 言語の四技能

学習成果は、言語の四技能、聞く、話す、読む、書くを基本とする。これら四技能にはまた、文法、音声、表記、語彙の適切な使用が含まれる。更にこのカリキュラムは、**高次思考力 (HOTs)**、価値観、公民教育など教育面での重要性も考慮している。

聞く、話す、読む、書くの言語技能は、このカリキュラムの中核をなす。聞く技術は学習者が近似した情報を理解し、識別することを可能にする。話す技術は学習者が自分の考えやアイデ

ィアを表現することを可能にする。読む技術は学習者がテキストから要点を把握したり、情報を得ることを可能にする。書く技術は学習者が表記という形で自己の考えを表明することを可能にする。芸術面での目的は学習者の能力に応じた適切なレベルの文学作品を楽しむ事である。コミュニケーションのため、情報を得て伝えるため、テキストから情報を取り出して理解するため、自己を創造的に表現するために、学習者はこれらの技術を総合的に使用する。

### 文法

文法もまた、この DSKP の言語目標を構成する。1年生から5年生までの学習で教えられる文法項目は、初級レベルである（*Common European Framework of Reference : CEFR* の A1 と A2）。これらの文法項目は、文脈と効果的な方法で導入され、口頭、表記の双方で使用できるようにならなければならない。文法項目は、学習者が多様な課題を通して充分触れることによって、確実に習得されなければならない。文法項目は、それだけで教えられるのではなく、話題に沿った文脈の中で導入されなければならない。

### 文化面

日本語を習得する際、文化や言語面での礼儀作法を理解することが必要である。日本における社会的な礼儀作法は、言外の意味を伝達する上で非常に重要である。

日本とマレーシアの文化の比較は、学習者が、自分の文化と日本の文化における共通点と相違点を見分け、理解し、親近感を持つことを目的とする。それにより、学習者は、日本社会での価値観や態度を学ぶための受容力や積極性を育てることができ。この世界は、異文化を分析的に理解する方向へと向かいつつあり、それはまた、学習者に言語的・非言語的両面での、効果的なコミュニケーション技術の習得を可能とする。

### 21世紀型スキルと学習者像

近年、教育界では 21 世紀型スキルについてよく話されている。

この 21 世紀の課題に直面するため、将来の世代を準備する必要がある。従ってマレーシア教育省は、教育ブループリントを作成した。このブループリントに基づいて、学校のカリキュラムは改訂される。これは知識と技能（創造的思考、革新的思考、問題解決とリーダーシップ）のバランスが取れるように埋め込

むことである。さらに、明確な学習の標準は、より高次の思考スキルに基づいてレイアウトされる。21 世紀の生活の複雑な要求には各生徒が認知能力の範囲を習得しなければならない。

表 1： 学習者像

学習者像	説明
弾力性がある人	彼らは、知恵、信頼、寛容、そして共感と課題に直面し、困難を克服することができる。

学習者像	説明
考える人	複雑な問題を認識し、それに取り組み、筋の通った倫理的な決定を行うために、批判的かつ創造的に考えるスキルを積極的に応用する。
コミュニケーションができる人	複数の言語、多様なコミュニケーションの方法を用いて考えと情報を自信を持って創造的に理解し表現する。まわりの人と積極的かつ効果的に共同作業を行う。

チームワークがある人	彼らは効果的に機能し、他の人との調和をすることができる。彼らは共同で責任を持ち、相互尊敬をし、チームの各メンバーの貢献を高く評価している。彼らは共同活動を通じて対人スキルを取得し、これによって良いリーダーとチームメンバーになる。
------------	--

学習者像	説明
探究する人	生来の好奇心を育む。調査と研究を行うために必要なスキルを獲得し、自主性を発揮しつつ学習する。主体的な学びを楽しみ、この学びの喜びを生涯を通じて持ち続ける。
信念を持つ人	正直さと誠意を持って、公正、公平であり、そして個人、集団、及び共同体の尊厳に対する尊敬の念を強く持って行動する。自分自身の行動と、その行動に伴う結果に対して責任を負う。
知識のある人	地域や世界にとって重要な概念、考え、問題を探究する。その中で、特定の学問分野に偏らず、幅広くバランスのとれた深い知識を身につけ、その理解を育む。
思いやりのある人	他の人たちが必要としていること、感じていることに対して思いやり、共感、そして尊重する気持ちを示す。他の人たちの生活と環境に良い影響を及ぼすために奉仕し、行動することを自分の責任とする。
愛国的な人	国のために彼らの愛、サポートと尊敬を示す。

## 高次思考スキル

高次思考スキルとは、問題解決、意思決定、技術革新や、何かを作成するための推論や反射を作るの知識やスキル、数値などを適用する能力である。明示的にカリキュラムに書かれており、生徒はそれぞれの専門分野でマスターするようにカリキュラム全体に組み込まれている。

### 表2：高次思考スキルのレベル

これらの高次の思考スキルを取り入れるには、注目すべき次の要素がある。批判的、創造的な思考スキルを適用する。

#### 批判的な思考スキル:

何を信じ、何をすべきかの判断のための、合理的な反省的思考力。

#### 創造的な思考スキル:

芸術における創作や、科学技術などにおける発明、発見などに典型的にみられる質の高い課題解決の過程。

レベル	説明
アプリケーション	様々な状況でタスクを実行するための知識、技能および数値を使用する。
解析	より深い理解の情報を改善し、全体にそれらの部品をリンクするために小さな部分の情報を調査する。
評価	検討し、知識、経験、価値観や正当性に基づいて意思決定を行う。
創造	アイデアや製品や、革新的で創造的な方法を構築する。

### 授業のストラテジー

教育と学習のアプローチは、学習プロセスの値の知識、技能の習得と感謝に向かって生徒の関心の主要な関心事であるべきだ。したがって、教育と学習への効果的なアプローチは、教育と学習を最適に学習生徒の参加を伴うと（楽しい学習体験を提供する生徒生徒中心の、インタラクティブ、アクティビティベース（活動ベースの学習）に着目されるように実装する必要があります楽しい学習）。このようなプロジェクトベースの学習、問題解決学習、構成主義と問い合わせ所見として指向の創造プロセスに基づく教育と学習へのアプローチ（インクワイリベース）は、効果的な教育と学習を生成することができます。教師は学習チームワーク、リーダーシップ能力、態度、説明責任と自己指向（自己方向）の文化の育成を奨励すべきである。

## 教科横断的の要素

この重点項目は、現代的な協力を考慮したうえで、学習者の就労及び社会生活への準備としての教育を助けるためのものである。この点で、道德教育、公民教育、愛国心、思考力は、現代の発展しつつある社会の構築に寄与するであろう。

### 1. 思考力

批判的、及び創造的な思考力は、学習目標の中で一体化され、学習者が情報を分析し、決定し、問題を解決し、また、自己を正確且つ創造的に表現することを可能にする。

### 2. 起業家思考・アントレプレナー教育

競争の激しい社会に対応するため、起業家の思考様式を生徒の間に助長

する必要がある。起業家の思考様式に関連するいくつかの要素は、創造性、革新性とイニシアティブであり、個人が充実感や達成感を得るための要素でもある。関係性のある有意義な活動を通じて、これらの要素を取り入れるべきである。

### 3. 学習方法を学ぶ技術

学習方法を学ぶこともまた、学習目標と学習意図の中で統合され、学習者が自己の学習に責任を持つことができるようになる。これらの技術は、情報技術、図書館などのリソースを利用する技術、学習技術を統合し、学習者が、より効果的に情報の存在場所を突き止め、自身の生涯を通して自主的に学習的することを可能にする。

### 4. アイシーティー(ICT)技術

ICT 技術は、電子通信手段によって情報を得るのと同様に、Eメールや、与えられたタスクの達成を目的として、学習者がマルチメディアを利用することを可能にするように考えられなければならない。

### 5. 総合的知性

総合的知性は、言語、数学的思考力、音楽、身体能力の育成、視覚的空間把握、外面的・内面的人間関係、自然主義などに関する知識を含む。学習重点項目は、総合的な知性と理論とを具体的に組み合わせることが必要である。例えば、学習者が、効果的なコミュニケーションをとるために、場面を考慮した言語使用が必要となる状況を経験することで、人間関係に関する知



性を得ることができる。ロールプレイまたは劇などの活動を通して、学習者の身体能力と言語能力を同時に育むことができる。また、詩の朗読や歌唱の活動を通して、学習者の音楽的知性を育むこともできる。

## 6. 価値観と公民性

中等教育の倫理科シラバスに含まれる価値観は、学習目標において統合され、愛国心と、公民教育を含む。

## 7. 知識の習得

学習目標は、化学、地理などの他の教科も利用し、環境学習や消費者教育などの言語使用の内容に合うように取り入れる。

## 8. 実社会への準備

学習目標は、社会での言語使用に焦点を当て、学習者が現実社会で出会う困難への準備をするものである。これは、このカリキュラムが人間関係面、情報面、芸術面から構成されることで達成される。それはまた、現実の生活上では、情報の獲得、決定、問題解決のために使われることで達成される。

## 9. グローバル・サステイナビリティ(地球持続)

グローバル・サステイナビリティの要素目的は、学生が持続可能性を考えることと環境に応答することができることである。さらに、持続可能な消費、生産と地球市民と連帯の要素を通じて得た知識、技能および値を適用生徒を開発することだ。学生を地域、国内およびグローバルでの課題や現状の課題に関して、準備するため、地球持続の要素が大事だ。これらの要素は、直接あるいは関連分野で挿入に教えられている。

## 10. ファイナンス（金融）教育

金融教育の要素の応用の理由は金融意思決定を行うことが可能な次世代を形作るためである。この要素は、直接あるいは関連分野で挿入に教えられている。

### 授業の評価（クラスルームアセスメント）

クラスルームアセスメントは、関係する教員が計画、実施、報告した生徒の発達に関する情報を得るプロセスです。これは、進行中のプロセスで、生徒のパフォーマンスのレベルを教師が決定できるようにする。

クラスルームアセスメントは、形成的および総括的評価として実施することができます。形成的評価は教育と学習の過程で実施されるが、総括的評価は学習単位、学期、学期または年の終わりに実施される。教師は、ドキュメントスタンダードカリキュラム（DSKP）に基づいて、学生の業績水準を管理し、項目や評価手段を構築し、管理し、調査し、記録し、報告する必要があります。

評価が学生の能力とパフォーマンスのレベルを向上させるためには、教師は次のような特徴を持つ評価を実施する必要があります。

- 観察、口頭、筆記試験などの様々な評価方法の使用。
  - 教師と生徒が実施できるさまざまな評価方法の使用。
  - 学んだ知識とスキルのさまざまなレベルを考慮に入れる。
  - 生徒にさまざまな学習機能を表示させる。
  - 学習基準とパフォーマンス基準に基づく学生のパフォーマンスレベルの評価。
  - 修復および濃縮目的のフォローアップ活動を実施する
- 教師は、記録簿、運動帳簿、メモ帳、チェックリスト、スケジュールに生徒の進歩を記録したり、その他の適切な記録方法を使用することができます。

### 全体的な性能レベル

各科目の全体的な成績レベルは、毎年末に決定されなければなりません。この全体的なパフォーマンスレベルは、知識、スキル、価値の側面をカバーしています。教師は、学習プロセスのあらゆる側面を見て、総合的かつ総合的に学生を評価する必要があります。

があります。教師は、すべての評価、特に全体的な実績レベルの決定プロフェッショナルな審査を利用すべきである。教師の知識や経験、生徒との教師のやりとり、同僚との教師の対話に基づいて、プロフェッショナルな審査を利用することができます。表3は、一般的なパフォーマンス・レベルのステートメントを示しています。

表3：一般的な日本語のパフォーマンス評価基準

レベル	総称注釈
<b>1</b> 非常に 限定	簡単なフレーズまたは文書が理解できる。また、非常に限られている言葉で、自分のことについて話し、反応できる。
<b>2</b> 限定	限られている言葉で、簡単なフレーズまたは文書を理解して、反応できる。わずかな教師の指導で、自分や家族、友達に関する事項を理解できる。また、わずかな教師の指導で、簡単な言葉や表現で自己紹介、家族・友達紹介ができる。
<b>3</b> 満足	簡単な言葉で、日常生活の行動についてたずねたり話したりすることができる。自分についてや、家族、友達に関する事項に反応できる。また、簡単な言葉や表現で自己紹介、家族・友達紹介ができる。簡単な日本語を聞き、応答できる。
<b>4</b> 良い	適当な日本語で日常生活の行動についてたずねたり話したりすることができる。自分についてや、家族、友達に関する事項に反応できる。様々な分野に関する情報を得ること、そして様々な聞き手に情報を口頭または筆記で伝えることができる。自己学習を適用する。

レベル	総称注釈
5 とても良い	適当な日本語を適切に使い、質問や応答、自己の考えを明確に表明することができる。言葉、フレーズ、具体的な指示と自分（1の自己）、家族、友達、環境、イベントに関する事項を理解できる。自己学習を適用する。
6 優れた	優れた簡単な日本語で、自分の考えを書いて表明することができる。様々な分野に関する情報を得ること、そして様々な聞き手に情報を口頭または筆記で伝えることができる。言葉、フレーズと具体的な指示だけでなく、自分、家族、友人、環境、イベントに関する事項を広く理解して、反応できる。自己学習を適用し、他の人のロールモデルとなる。

### カリキュラム構成

この日本語 **DSKP** は、コミュニケーションをとる時、情報を得る時、テキストを読み理解する時に、学習者の価値観、習慣、慣習の理解を助ける知識と異文化認識を習得する時など、ある一定の状況で使われる日本語に沿って作成されている。従って、日本語の文字の早期習得と、日本の価値観や習慣の常時適切な導入とが、重視される。日本語カリキュラムの実装は一年間に64時間の授業で、現在の円形文字(*Surat Pekeling Iktisas*)にしたがったものです。

### 言語使用の目的

言語の使用においては、人間関係面での使用、情報面での使用、芸術面での使用、の三つの分野がある。人間関係面での言語の目的は、学習者が効果的且つ適切に対話することを可能にすることである。情報面での言語の目的は、学習者が情報を得、分析し、伝えるために言語を使用することを可能にすることである。芸術面での言語の使用は、学習者が自己の言語能力に合ったレベルで

適切に自己を表現することを可能にすることである。芸術面での言語の使用は、学習者が自己の言語能力に合ったレベルで適切に自己を表現することを可能にすることである。明示的に **DSKP** で書かれており、生徒がそれぞれの専門分野をマスターできるように高次の思考能力（HOT s）が明示的に **DSKP** で書かれており、カリキュラム全体に組み込まれている。

### 文化面での目標

日本語を習得する際、文化面や言語面での礼儀作法を理解することが必要である。日本における社会的な礼儀作法は、言外の意味を伝達する上で非常に重要である。コミュニケーションにおける微妙であいまいな点も、日本人にとっては、当該者間での調和的関係を維持する意味がある。文化面での経験は、学習者が日本の文化と礼儀作法を理解し、よりよいコミュニケーションを容易にするために必要である。学習目標は、以下の話題を関連付け、適切に生徒に導入しなければならない。

文化面における学習目標は、異文化理解と、文化面での競争での優位性との、二つの面から構成される。日本とマレーシアの文化の比較は、学習者が、自分の文化と日本の文化における共通点と相違点を見出し、理解し、親近感を持つことを目的とす

る。それにより、学習者は、日本社会での価値観や態度を学ぶための受容力や積極性を育てることができる。この世界は、異文化を分析的に理解する方向へと向かいつつあり、それはまた、学習者の、言語的・非言語的両面での、効果的なコミュニケーション技術の習得を可能にする。

文化的差異に関する知識は、国際的な場面では非常に貴重なものであり、学習者の将来の成功のための競争力を優位にするものである。

### 言語項目

当 **DSKP** の言語項目は、教師が参照とするための、音声体系、表記体系、語彙リスト、文法からなる。

### 音声体系

日本語の音声体系は、以下にあげるリストから成り立っており、これらは学習計画の最初の段階で導入される。以下のリストは、学習者が、アクセント、拍、イントネーションを正しく認識すると同様に、語を正しく発音できるようになるために、教師への指針として作られたものである。

- i. 母音: 長母音; 半母音; 母音の無声化
- ii. 子音: 二重子音; 子音/n/

- iii. その他：アクセント；拍；イントネーション

### 表記体系

日本語の表記においては、三つの表記が同時に使われている。

- i. ひらがな
- ii. カタカナ
- iii. 漢字

ひらがなは基本的に、日本語全般の発音を表す。カタカナは普通、外国語、外来語、擬音語・擬態語（何かが起こったときの音や様子を表す語）などに

使用される。ひらがなとカタカナは言葉の音だけを表すが、漢字は意味と音を表す。

### 語彙表

語彙は、初級レベルの語彙を習得する必要がある。これらの語彙は、シラバス一覧の語彙リストに掲載してある。

### 文法

1年生から5年生までの学習で教えられる文法項目は、初級レベルである。文法もまた、このシラバスの言語目標を構成する。これらの文法項目は、文脈と合わせて効果的な方法で導入され、

口頭、筆記の双方で使用できるようにならなければならない。文法項目は、学習者が多様な課題を通して十分に触れることによって、確実に習得されなければならない。文法項目は、それだけで教えられるのではなく、話題に沿った文脈の中で導入されなければならない。

学習目標は、教師が教える上での指針であり、到達目標から導き出されたものである。これは、聞く、話す、読む、書くの四技能、音声体系、表記体系、語彙リスト、そして文法が含まれる。学習目標と言語項目の詳細は、1年生から5年生までのDSKP(シラバス一覧)を参照のこと。

## 到達目標 ・内容基準

表 4： 内容基準、学習基準とパフォーマンス基準

内容基準	学習基準	パフォーマンス基準
<p>内容基準は生徒が学校教育の期間において、知っておくべき、かつ行うことができる知識面、スキル、価値観を含めた、特定のものである。</p>	<p>各内容基準の学習と成果を測定することができる特定の基準、またはインディケータである。</p>	<p>パフォーマンス基準は生徒の学力レベルを示す共通の評価基準で、生徒があることを習得した証である。（成功の指標）</p>





四年生の 内容基準、  
学習基準とパフォーマンス  
基準



## 1.0 リスニングとスピーキング {聞き・話す}

内容基準	学習基準	ノート
<p>1.1 簡単な指示を与え、あいさつする。</p>	<p>1.1.1 簡単な指示を与え。 注: プロセスと手順。</p>	<p>文型: 副詞: かならず Aく+V ANにV で〔材料〕 助数詞: 半分 さいごに つぎ</p>
<p>1.2 自己紹介、自分自身について話す。</p>	<p>1.2.1 下のことについて話せる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(i) 自己</li> <li>(ii) 家族</li> <li>(iii) 友だち</li> <li>(iv) 学校</li> <li>(v) 町と社会</li> <li>(vi) 国</li> </ul>	<p>例: 学生交流プログラム/ホームステイ/旅行での経験 文型: Nのとき, Aとき, ANなとき, Vるとき, Vたとき ～中, に〔対象〕, と〔相手を必要とする動作の相手〕 Vたことがあります, Nで/Vて/ANで /Aくて(理由), VたりVたりします, ～という, ～ですが(逆接), 接続詞: そして 副詞: ほんとうに ちょうど</p>

内容基準	学習基準	ノート
1.3 会話に参加する。	1.3.1 挨拶することか <sup>て</sup> び <sup>ぎ</sup> る。	尊敬： ようこそ・よく、いらしゃいました、
	1.3.2 興味のある話題に尋ねたり、意見を述べたりすることができます。	<p>例： 環境問題（自然災害）、健康的な生活様式など N/AN になる A くなる AN にする A くする ～でしょう（推量） もう＋（－Ve） まだ＋（＋Ve） 副詞： だんだん、きっと</p>
	1.3.3 提案/アイデアを与えて 議論に参加することができます。	<p>注： 現在の学習者の関心事項を考慮する必要がある。 例： 訪れる場所・旅行する場所・行く先所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• V たほうがいい</li> <li>• </li> <li>• 副詞： とくに</li> </ul>

リスニングスキルの基準	
レベル	パフォーマンス
1 非常に限定	完全なガイダンスで、与えられたトピックの情報を聞いて情報を特定する。
2 限定	少し・ほとんどガイダンスで、与えられた話題に関する情報を聞いて情報を特定する。
3 満足	簡単な日本語の言葉で話した話題に関する情報を聞いて情報を得る。
4 良い	一貫して、簡単な日本語の言葉で話した話題に関する情報を聞いて情報を得る。自己学習を適用する。
5 とても良い	与えられた話題に関する情報を聞いて、情報を抽出する。自己学習を適用する。
6 優れた	与えられたトピックの情報を聞いて情報を抽出する。自己学習を適用し、他の人にロールモデルであること。

スピーキングスキルの基準	
レベル	パフォーマンス
1 非常に限定	日本語でのコミュニケーションをにするため、完全なガイダンスで、自分の考えを表明して、言語、非言語両面でのコミュニケーションに応答する。
2 限定	日本語でのコミュニケーションをにするため、ガイダンスで、自分の考えを表明して、言語、非言語両面でのコミュニケーションに応答する。
3 満足	日本語でのコミュニケーションをにするため、簡単な日本語の言葉で自分の考えを表明して、言語、非言語両面でのコミュニケーションに応答する。
4 良い	効果的にコミュニケーションをにするため、自分の考えを表明して、言語、非言語両面でのコミュニケーションに応答する。
5 とても良い	一貫して、効果的にコミュニケーションをにするため、自分の考えを表明して、言語、非言語両面でのコミュニケーションに 応答する。自己学習を適用する。
6 優れた	一貫して、効果的にコミュニケーションをにするため、自分の考えを表明して、言語、非言語両面でのコミュニケーションに 応答する。自己学習を適用し、他の人にロールモデルであること。

## 2.0 読む

内容基準	学習基準	ノート
2.1 読むため、文字の音の知識を適用して、さまざまなテキストを読んで理解する	2.1.1 漢字の文字の形を識別して区別できる。	国、食、飲、買、聞、立、作、書、読、長、安、高、古、魚、天、気、社、話、文、雨、昼
	2.1.2 さまざまな音を正しく発音できます。	音声体系 <ul style="list-style-type: none"> <li>● アクセント</li> <li>● 拍</li> <li>● イントネーション</li> </ul>
2.2 さまざまなテキスト（リニアとノンリニア）の理解を示す。	2.2.1 テキストを読み、テキストの理解を示すため、予測することができる。	例：天気予報、食品ピラミッド
	2.2.2 テキストを読み、テキストの理解を示す、シーケンシングすることができる。	注：プロセスと手順：レシピ、予定暫定

内容基準	学習基準	ノート
2.3 さまざまな目的のための情報の入手する。	2.3.1 主なアイデアや詳細を特定することで、さまざまなテキストを分析することができます(スキミングと スキャン読み取り)。	例：フローチャート、日記
	2.3.2 線形および非線形のテキスト（リニアとノンリニア テキスト）を評価することができる（案内付き・ガイダンスで）。 i). 情報を選択する。 ii). 情報を比較する。	例：メニュー、パンフレット




	読書スキルの基準
レベル	パフォーマンス
1 非常に限定	ガイダンスで、様々なテキスト（日常に関するテキスト）を読み、情報を特定する。
2 限定	様々なテキスト（日常に関するテキスト）を読み、情報を特定する。
3 満足	さまざまなテキストから特定の情報を読み取り、識別したり、測する。
4 良い	様々なテキストを読んで分析し、情報を評価する（主なアイデアとサポートアイデアを見つける）。
5 とても良い	様々なテキストを読んで分析し、情報を評価する（主なアイデアとサポートアイデアを見つける）。自己学習を適用する。
6 優れた	様々なテキストを読んで分析し、情報を評価する（主なアイデアとサポートアイデアを見つける）。自己学習を適用し、他の人にロールモデルであること。

### 3.0 書く

内容基準	学習基準	ノート
3.1 単語やフレーズでひらがな、カタカナと漢字の使用ができる。	3.1.1 正確な筆順で書くことができる。	漢字: 国、食、飲、買、聞、立、作、書、読、長、安、高、古、魚、天、気、社、話、文、雨、昼
3.2 目的の範囲内で、様々な形やスタイルの書面で適切な言語を使用することができる。	3.2.1 特定のトピックに関する短い（簡単な）パラグラフを書くことができる。	例：旅行、イベント
	3.2.2 どこかに行く計画を書くことができます。	例：観光名所の地図
	3.2.3 教師の指導で 様々なジャンルで自分の経験を書くことができます。	例：日記、ブログ、ジャーナル

	ライティングスキルの基準
レベル	パフォーマンス
1 非常に限定	ガイダンスで、与えられた話題についてリンクされた文章でアイデアを書いて表現する。
2 限定	最小限のガイダンスで、与えられた話題についてリンクされた文章でアイデアを書いて表現する。
3 満足	ガイダンスなしで、与えられた話題についてリンクされた文章でアイデアを書いて表現する。
4 良い	体系的に与えられたトピックについてのパラグラフでアイデアを書いて表現する。自己学習を適用する。
5 とても良い	創造的に与えられたトピックについてのパラグラフでアイデアを書いて表現する。自己学習を適用する。
6 優れた	創造的に与えられたトピックについてのパラグラフでアイデアを書いて表現する。自己学習を適用し、他の人にロールモデルであること。

## 4.0 芸術

内容基準	学習基準	ノート
<p>4.1 日本の歌を歌い、聞いて楽しみをする。 それに歌を鑑賞する。</p>	<p>4.1.1 曲をレビューし分析することができます。 (歌詞を読む、書く(選択された曲))</p>	<p>例: 四季の、すきやき(上を向いて歩こう)</p>
<p>4.2 日本語のスク립トを認識し、発音し、表記することができ、筆で書くことができる(ひらがな、カタカナや一定数の漢字)。</p>	<p>4.2.1 書道を使って作品を作ることができます。</p>	<p>例:</p> 
<p>4.3 ストーリー: 学習者は以下のことが自分の言葉でできる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 聞く</li> <li>• 読む</li> <li>• 考察する</li> <li>• 再び語る</li> <li>• 書く</li> </ul> <p>(短い話, 昔話, マンガ, アニメ)</p>	<p>4.3.1 ガイド付きの絵に基づいて適切な言葉を空白に記入してストーリーを完成させることができます。</p>	<p>書く</p>
	<p>4.3.2 聞いたあるいは読んだ簡単なストーリーを再び語るすることができます。</p>	

内容基準	学習基準	ノート
<p>4.4 俳句を楽しむ。</p> <p>a. 俳句を見て、聞いて、読んで、そして正しい発音、ストレス、リズムとイントネーションで暗唱する。</p> <p>b. 自分で俳句を書く。</p>	<p>4.4.1 空白を適切な言葉で埋めて俳句を完成させることができます。</p> <p>4.4.2 俳句を創造的に適応させ、演じる。</p>	<p>例：環境に関係ある俳句 ともゆく、さいくりんぐの、風が 好き。－群馬県 策の花 地球には 「ごめんね」よりも 「ありがとう」。－KOKESHI</p> <p>例：もういちど だれかのために リサイクル －清宮香子</p> <p>「もういちど 未来のために リ サイクル」</p>

※このスキルは 四つ言語スキルとともに評価すること。

## 5.0 文法

内容基準	学習基準	ノート
5.1 単語・語彙・言葉を正しく使用する。	5.1.1 正しくて、適切な助詞を使用することができる。	ノート： 人に関連する助詞、使用法、材料、
	5.1.2 正しく接続詞を使用することができる。	ノート： パラドックス、接尾辞に関連する。 さいごに, つぎ, そして, ところで
5.2 文を正しく作る。	5.2.1 正しくて、適切な形容詞を使用することができる。	ノート： カスタム、実践、決定、能力、状態変化の表現に関連する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• N/AN になる</li> <li>• A くなる</li> <li>• N/AN にする</li> <li>• A くする</li> <li>• A く V</li> <li>• AN に V</li> <li>• Adj+N+に+V</li> </ul>

内容基準	学習基準	ノート
5.2 文を正しく作る。	<p>5.2.2 経験の文章を正しく構成することができる。</p> <p>5.2.3 正しい活用で文を理由と表現することができる。</p> <p>5.2.4 直接引用文を正しく構成することができる。</p> <p>5.2.5 完全と不完全なアクションを示すフレーズを使用して、文章を構築することができる。</p>	<p>N の/ A/ AN な/ V る/ とき V たことがある V たり、V たりするたとき</p> <p>たら、 から、</p> <p>～と言う</p> <p>もう～、 まだ～</p>

※このスキルは 四つ言語スキルとともに評価すること。





五年生の 内容基準、  
学習基準とパフォーマンス基準



## 0.1 リスニングとスピーキング {聞き・話す}

内容基準	学習基準	ノート
1.1 簡単な指示を与え、あいさつする。	1.1.1 簡単な指示を与え。 注：プロセスと手順。	例： イベントについての指導(文化祭) 文型： Vである（自動詞・他動詞） ～くださいませんか が（主語） 接続詞
1.2 自己紹介、自分自身について話す。	1.2.1 下のことについて話せる。  (i) 自己 (ii) 家族 (iii) 友だち (iv) 学校 (v) 町と社会 (vi) 国	例： 自分の夢とスピーチやプレゼンテーションに期待する （誰かに対処する方法を含む）  文型： 格助詞＋は/も V+N（連体修飾）  プロノミナルフォーム 形容詞句（AP）： 高いやま、立派な建物 動詞句（VP）:買った本  接続詞： ところで, それでは

内容基準	学習基準	ノート
1.3 会話に参加する。	<p>1.3.1 挨拶することか て きる。</p> <p>1.3.2 興味のある話題に尋ねたり、意見を述べたりすることができます。</p> <p>1.3.3 将来計画を立て、提案/アイデアを与えて 議論に参加することができます</p>	<p>尊敬: ようこそ・よく、いらっしゃいました、</p> <p>例: 社会問題 (サイバー犯罪、いじめ、喫煙) 雇用など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ~しか</li> <li>• ~ません。</li> <li>• だけ</li> </ul> <p>注: 現在の学習者の関心事項を考慮する必要がある。</p> <p>例: 学習するコース/大学を選択する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ~に (帰着点)</li> <li>• ~は (比較)</li> <li>• ~を (起点・経由)</li> <li>• ~が</li> </ul>

	リスニングスキルの基準
レベル	パフォーマンス
1 非常に限定	完全なガイダンスで、与えられたトピックの情報を聞いて情報を特定する。
2 限定	少し・ほとんどガイダンスで、与えられた話題に関する情報を聞いて情報を特定する。
3 満足	簡単な日本語の言葉で話した話題に関する情報を聞いて情報を得る。
4 良い	一貫して、簡単な日本語の言葉で話した話題に関する情報を聞いて情報を得る。自己学習を適用する。
5 とても良い	与えられた話題に関する情報を聞いて、情報を抽出する。自己学習を適用する。
6 優れた	与えられたトピックの情報を聞いて情報を抽出する。自己学習を適用し、他の人にロールモデルであること。

	スピーキングスキルの基準
レベル	パフォーマンス
1 非常に限定	日本語でのコミュニケーションをにするため、完全なガイダンスで、自分の考えを表明して、言語、非言語両面でのコミュニケーションに応答する。
2 限定	日本語でのコミュニケーションをにするため、ガイダンスで、自分の考えを表明して、言語、非言語両面でのコミュニケーションに応答する。
3 満足	日本語でのコミュニケーションをにするため、簡単な日本語の言葉で自分の考えを表明して、言語、非言語両面でのコミュニケーションに応答する。
4 良い	効果的にコミュニケーションをにするため、自分の考えを表明して、言語、非言語両面でのコミュニケーションに応答する。
5 とても良い	一貫して、効果的にコミュニケーションをにするため、自分の考えを表明して、言語、非言語両面でのコミュニケーションに 応答する。自己学習を適用する。
6 優れた	一貫して、効果的にコミュニケーションをにするため、自分の考えを表明して、言語、非言語両面でのコミュニケーションに 応答する。自己学習を適用し、他の人にロールモデルであること。

## 2.0 読む

内容基準	学習基準	ノート
2.1 読むため、文字の音の知識を適用して、さまざまなテキストを読んで理解する。	2.1.1 漢字の文字の形を識別して区別できる。	住、学、電、校、駅、北、南、東、西、新、週、道
	2.1.2 さまざまな音を正しく発音できます。	音声体系 <ul style="list-style-type: none"> <li>● アクセント</li> <li>● 拍</li> <li>● イントネーション</li> </ul>
2.2 さまざまなテキスト（リニアとノンリニア）の理解を示す。	2.2.1 テキストを読み、テキストの理解を示すため、予測することができる。	例：原因と結果：環境問題、社会問題、行事
	2.2.2 テキストを読み、テキストの理解を示す、シーケンシングすることができる。	注：プロセスと手順：ポスター

内容基準	学習基準	ノート
2.3 さまざまな目的のための情報の入手する。	2.3.1 主なアイデアや詳細を特定することで、さまざまなテキストを分析することができます(スキミングとスキャン読み取り)。	例: 大学生のライフスタイルに関する記事
	2.3.2 線形および非線形のテキスト (リニアとノンリニア テキスト) を評価することができる (案内付き・ガイダンスで)。 i). 情報を選択する。 ii). 情報を比較する。 iii). 情報を分類する。 iv). 情報を分離する。	例: 大学のパンフレット • 勉強するのに最適な大学やカレッジを選択する。
	2.3.3 情報を与えるためと、楽しみに読むことができる。 i) フィクション ii) ノンフィクション	例: アニメ、コミック (漫画)




	読書スキルの基準
レベル	パフォーマンス
1 非常に限定	ガイダンスで、様々なテキスト（日常に関するテキスト）を読み、情報を特定する。
2 限定	様々なテキスト（日常に関するテキスト）を読み、情報を特定する。
3 満足	さまざまなテキストから特定の情報を読み取り、識別したり、測する。
4 良い	様々なテキストを読んで分析し、情報を評価する（主なアイデアとサポートアイデアを見つける）。
5 とても良い	様々なテキストを読んで分析し、情報を評価する（主なアイデアとサポートアイデアを見つける）。自己学習を適用する。
6 優れた	様々なテキストを読んで分析し、情報を評価する（主なアイデアとサポートアイデアを見つける）。自己学習を適用し、他の人にロールモデルであること。

## 3.0 書く

内容基準	学習基準	ノート
<p>3.1 単語やフレーズでひらがな、カタカナと漢字の使用ができる。</p>	<p>3.1.1 正確な筆順で書くことができる。</p>	<p>漢字: 住、学、電、校、駅、北、南、東、西、新、週、道</p>
<p>3.2 目的の範囲内で、様々な形やスタイルの書面で適切な言語を使用することができる。</p>	<p>3.2.1 ノンリーニアからリーニアのテキストを構築することができます。</p> <p>3.2.2 希望や夢のような特定のトピックについてアイデアを表現するためのシンプルなテキストを作成できます。</p>	<p>例：グラフ、チャート図（社会問題）</p> <p>例：大学入学の履歴書</p>

	ライティングスキルの基準
レベル	パフォーマンス
1 非常に限定	ガイダンスで、与えられた話題についてリンクされた文章でアイデアを書いて表現する。
2 限定	最小限のガイダンスで、与えられた話題についてリンクされた文章でアイデアを書いて表現する。
3 満足	ガイダンスなしで、与えられた話題についてリンクされた文章でアイデアを書いて表現する。
4 良い	体系的に与えられたトピックについてのパラグラフでアイデアを書いて表現する。自己学習を適用する。
5 とても良い	創造的に与えられたトピックについてのパラグラフでアイデアを書いて表現する。自己学習を適用する。
6 優れた	創造的に与えられたトピックについてのパラグラフでアイデアを書いて表現する。自己学習を適用し、他の人にロールモデルであること。

## 4.0 芸術

内容基準	学習基準	ノート
4.1 日本の歌を歌い、聞いて楽しむをする。それに歌を鑑賞する。	4.1.1 曲をレビューし分析することができます。 (歌詞を読む、書く (選択された曲))	例: 三人の友達, みはるかす、十年桜
4.2 日本語のスク립トを認識し、発音し、表記することができ、筆で書くことができる(ひらがな、カタカナや一定数の漢字)。	4.2.1 書道を使って作品を作ることができます。 4.2.2 自分の書道作品を展示することができます。	例: 
4.3 学習者は以下のことが自分の言葉でできる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 聞く</li> <li>• 読む</li> <li>• 考察する</li> <li>• 再び語る</li> <li>• 書く</li> </ul> (短い話, 昔話, マンガ, アニメ)	4.3.1 与えられたダイアログや写真に基づいて簡単な物語を作成することができます。	書く

内容基準	学習基準	ノート
<p>4.4 俳句を楽しむ。</p> <p>a. 俳句を見て、聞いて、読んで、そして正しい発音、ストレス、リズムとイントネーションで暗唱する。</p> <p>b. 自分で俳句を書く。</p>	<p>4.4.1 シンプルな俳句を作成して演奏することができる。</p>	<p>例: ランチパック プラスチックより お弁当</p>

※このスキルは 四つ言語スキルとともに評価すること。

## 5.0 文法

内容基準	学習基準	ノート
5.1 単語・語彙・言葉を正しく使用する。	5.1.1 正しくて、適切な助詞を使用することができる。  5.1.2 正しく接続詞を使用することができる。	文法・文型表に参考：比較、目的、行先、位置的存在、直接接触，強調（否定型）、対象に関連する助詞、
5.2 文を正しく作る。	5.2.1 正しくて、適切な形容詞を使用することができる。  i) フォーマルスピーチ (~くださいませんか)  ii) (推移動詞)+であることで自発的な行動を示す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● フォーマルスピーチ</li> <li>● 推移動詞 +である</li> </ul>

内容基準	学習基準	ノート
5.2 文を正しく作る。	<p>5.2.2 V+Nのフレーズを構築できます。</p> <p>5.2.3 正しい活用で文を理由と表現することができる。</p> <p>5.2.4 直接引用文を正しく構成することができる。</p> <p>5.2.5 完全と不完全なアクションを示すフレーズを使用して、文章を構築することができる。</p>	<p>動詞 + 名詞 例：書いた作文</p> <p>たら、 から、</p> <p>～と言う</p> <p>もう～、 まだ～</p>

※このスキルは 四つ言語スキルとともに評価すること。

## 付録（四年生）

文法・文型	
<p><b>文型</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• N/AN になる / A くなる</li> <li>• N/AN にする / A くする</li> <li>• A く V / AN に V</li> <li>• Adj+N+に+V</li> <li>• A とき / AN なとき / N のとき、 / V るとき V たとき</li> <li>• N で（理由）</li> <li>• V て（理由）</li> <li>• AN で（理由）</li> <li>• A くて（理由）</li> <li>• V たことがある</li> <li>• V たり、V たりする</li> <li>• ～と言う</li> <li>• ～ですが、～（逆接）</li> <li>• ～中</li> <li>• もう（一Ve） / もうお金がありません。</li> <li>• まだ+Positive:</li> <li>• まだ時間があります。</li> <li>• V たほうがいい</li> <li>• ～にくい</li> <li>• ～やすい</li> </ul>	<p><b>助詞</b></p> <p>に： 先生に会います。</p> <p>と： 友だちと会います。</p> <p>で： 木でつくえをつくります。</p> <p><b>表現：</b> こちらこそ、おじゃまします、どうも</p> <p><b>接続詞</b> かならず ほんとうに だんだん とくに きっと</p>



## 付録 (五年生)

文法・文型	
<p><b>文型</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• N+が+Vt/N+を+Vt</li> <li>• V+である</li> <li>• [V/+Adj/+Adj+N]+N</li> <li>• が（主語）</li> <li>• だけ:</li> <li>• 男の子が一人だけいます。</li> <li>• くだものだけ食べました。</li> <li>• しか:</li> <li>• お金が少ししかありません。</li> <li>• 一つしか持たない</li> <li>• N+を/V+てくださいませんか</li> <li>• あの人は学生でしょう。</li> </ul> <p><b>表現:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ようこそ、よく、いらしゃいました、</li> </ul> <p><b>接続詞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ところで</li> </ul>	<p><b>助詞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• に:</li> <li>• 家にかえります。</li> <li>• バスにのります。</li> <li>• は:</li> <li>• 田中さんは行きますが、すずきさんは行きません。</li> <li>• 私はおさけは飲みません。</li> <li>• 格助詞+は/も:</li> <li>• いすの上には新聞があります。</li> <li>• このバスは大学へは行きません。</li> <li>• 家でも学校でもよく勉強します。</li> <li>• 田中さんとは話しましたがすずきさんとは話しませんでした。</li> <li>• ドイツからも学生が来ました。</li> <li>• が:</li> <li>• きのう友だちが来ました。</li> <li>• を:</li> <li>• 家を出ます。</li> <li>• 駅の前をとおります。</li> </ul>

## 第4年から第5年までの語彙リスト

No	Category	Kanji	Hiragana	English
1	Adjectives	大きな	おおきな	big
2	Adjectives	小さな	ちいさな	little
3	Adjectives		ひどい	terrible
4	Adverb	結構	けっこう	splendid, enough
5	Adverb	大変	たいへん	very
6	Adverb		だんだん	gradually
7	Adverb		ちょうど	exactly
8	Adverb	本当に	ほんとうに	really, truly
9	Adverb	必ず	かならず	certainly
10	Adverb	特に	とくに	especially
11	Adverb		きっと	surely
12	Clothes and Accessories	背広	せびろ	business suit
13	Clothes and Accessories		ポケット	pocket
14	Clothes and Accessories		ボタン	button
15	Clothes and Accessories		ワイシャツ	business shirt
16	Clothes and Accessories		ジーパン	jeans
17	Clothes and Accessories		ワンピース	one-piece
18	Clothes and Accessories		バチック	batik
19	Clothes and Accessories		ハンドバッグ	handbag
20	Clothes and Accessories	浴衣	ゆかた	yukata (pakaian perempuan)
21	Clothes and Accessories		じんべい	jinbei (pakaian lelaki)
22	Connectors		それでは	that's why, then
23	Connectors		から	Used as a conjunction and indicates a cause or reason
24	Connectors	最後に	さいごに	finally
25	Connectors		ところで	by the way
26	Counters	半分	はんぶん	half

27	Day / Date / Time	晩	ばん	evening
28	Day / Date / Time	一ヶ月	いっかげつ	one month
29	Day / Date / Time	夕方	ゆうがた	evening
30	Day / Date / Time	時	とき	time
31	Day / Date / Time	昔	むかし	in the old days
32	Day / Date / Time	再来週	さらいしゅう	the next two weeks
33	Day / Date / Time	再来月	さらいげつ	the next two months
34	Day / Date / Time	再来年	さらいねん	the next two years
35	Day / Date / Time	正月	しょうがつ	New Year's Day
36	Day / Date / Time	将来	しょうらい	future
37	Day / Date / Time	夕方	ゆうがた	evening
38	Day / Date / Time		ハリ Raya	Hari Raya
39	Day / Date / Time		チャイニーズニューイヤー	Chinese New Year
40	Day / Date / Time		ディーパバリ	Deepavali
41	Day / Date / Time		クリスマス	Christmas
42	Day / Date / Time		カアマトンのひ	Kaamatan Day
43	Day / Date / Time		ガワイのひ	Gawai Day
44	Day / Date / Time	独立記念日	どくりつきねんび	National Day
45	Family	ご主人	ごしゅじん	(honorable) husband
46	Family	奥さん	おくさん	(honorable) wife
47	Family		いとこ	cousin
48	Family	甥	おい	nephew
49	Family	姪	めい	niece
50	Food and drinks		たばこ	tobacco,cigarettes
51	Media		ICT 「アイシーチー」	ICT
52	Media		インタネット	internet
53	Media		ネットいじめ	cyber bully
54	Media		メール	email
55	Particles		より	Used for comparison.

56	Particles		で	Indicate the time of completion or expiration of something
57	Particles		で	Indicate a state / condition of something
58	Particles		から	Indicate a source such as a giver, a cause or material
59	Particles		から	conjunction meaning “after” or “since”
60	Place	大使館	たいしかん	embassy
61	Place	バス停	バスてい	bus stop
62	Place		ホームステイ	homestay
63	Place	空港	くうこう	airport
64	Place		キャンプ	camp
65	Pointers		そっち	over there
66	Pointers		あっち	over there
67	Pointers		こっち	this person or way
68	Questions		いかが	how
69	Questions		どっち	which
70	School	校長(先生)	こうちょう (せんせい)	Principal
71	School	教頭(先生)	きょうとう (せんせい)	Senior Assistant
72	School	小学校	しょうがっこう	Primary School
73	School	中学校	ちゅうがっこう	Secondary School
74	School	高校	こうこう	High School
75	Self	方	かた	(honorable) person
76	Self	私	わたくし	(humble) I, myself
77	Vehicle	自動車	じどうしゃ	Automobile
78	Verb	開く	あく	to become open
79	Verb	挙げる	あげる	to give
80	Verb	要る	いる	to need
81	Verb	返す	かえす	to return something
82	Verb	消える	きえる	to disappear
83	Verb	答える	こたえる	to answer
84	Verb	困る	こまる	to be worried

85	Verb	咲く	さく	to bloom
86	Verb	差す	さす	to raise an umbrella
87	Verb	閉まる	しまる	to close, to be closed
88	Verb	吸う	すう	to smoke, to suck
89	Verb	頼む	たのむ	to ask
90	Verb	違う	ちがう	to differ
91	Verb	出かける	でかける	to go out
92	Verb	無くす	なくす	to lose something
93	Verb	貼る	はる	to stick
94	Verb	引く	ひく	to pull
95	Verb		やる	to do
96	Verb	渡す	わたす	to hand over
97	Verb	渡る	わたる	to go across
98	Weather / Nature		ストーブ	heater
99	Weather / Nature	空	そら	sky
100	Weather / Nature	浮き	うき	wet season
101	Weather / Nature	乾季	かんき	dry season
102	Weather / Nature	大雨	おおあめ	heavy rain
103	Weather / Nature	小雨	こさめ	drizzle / light rain
104	Weather / Nature	台風	たいふう	typhoon
105	Weather / Nature	森	もり / ジャングル	jungle
106	Weather / Nature	雲	くも	cloud
107	Weather / Nature	桜	さくら	sakura
108	Weather / Nature		ハイビスカス	hibiscus
109	Weather / Nature	島	しま	island
110	Weather / Nature	津波	つなみ	tsunami
111	Weather / Nature	自然	しぜん	nature
112	Weather / Nature	地震	じしん	earthquake
113	Weather / Nature	天気予報	てんきよほう	weather
114	Weather / Nature	洪水	こうずい	flood

115	表現		おまたせしました	Sorry to have kept you waiting
116	表現		こちらこそ	It is I who should say so
117	表現		少々おまちください	Please wait for a while (very polite)
118	表現		おじゃまします	Sorry to intrude (greeting used when you visit someone's place)
119	表現		ごめんなさい	Sorry
120	表現		ようこそ / よく、いらっしゃいました	Welcome
121	表現		おげんきで	take care (when parting); stay well (letter closing)

## カリキュラムパネルメンバー

- |    |  |  |
|----|--|--|
| 1. | Dayang Nor Ashikin binti Harun           | Bahagian Pembangunan Kurikulum           |
| 2. | Mariana binti Najmudin                   | Bahagian Buku Teks                       |
| 3. | Chin Siew Siew                           | Sekolah Sultan Alam Shah, Putrajaya      |
| 4. | Hajah Mazuin binti Abd. Malek            | SMAP Labu, Negeri Sembilan               |
| 5. | Hajah Nor Jihah binti Abd Aziz           | Sekolah Seri Puteri, Cyberjaya, Selangor |
| 6. | Hajah Norsimah binti Mat Yunan           | SBPI Rawang, Selangor                    |
| 7. | Hani Azita binti Ahmad                   | SMS Kuala Selangor, Selangor             |
| 8. | Mohd Nor Shamsul Bahri Al Amin bin Ishak | SS Sultan Hj. Ahmad Shah, Pahang         |
| 9. | Zainon binti Majid                       | Sekolah Tun Fatimah, Johor               |

## 参加者

- |    |                 |                               |
|----|-----------------|-------------------------------|
| 1. | Konishi Hiroaki | Japan Foundation Kuala Lumpur |
| 2. | Yumi Serizawa   | Japan Foundation Kuala Lumpur |

## アドバイザー

- |                           |   |                                 |
|---------------------------|---|---------------------------------|
| Dr. Mohamed bin Abu Bakar | - | Timbalan Pengarah (Kemanusiaan) |
| Datin Dr. Ng Soo Boon     | - | Timbalan Pengarah (STEM)        |

## 編集者

- |                                  |   |              |
|----------------------------------|---|--------------|
| Mohamed Zaki bin Abd. Ghani      | - | Ketua Sektor |
| Haji Naza Idris bin Saadon       | - | Ketua Sektor |
| Dr. Rusilawati binti Othman      | - | Ketua Sektor |
| Fazlinah binti Said              | - | Ketua Sektor |
| Mahyudin bin Ahmad               | - | Ketua Sektor |
| Mohd Faudzan bin Hamzah          | - | Ketua Sektor |
| Mohamed Salim bin Taufix Rashidi | - | Ketua Sektor |
| Paizah binti Zakaria             | - | Ketua Sektor |
| Hajah Norashikin binti Hashim    | - | Ketua Sektor |
| Haji Sofian Azmi bin Tajul Arus  | - | Ketua Sektor |



**Penyelaras Teknikal Penerbitan dan Spesifikasi**

Saripah Faridah binti Syed Khalid

Nur Fadia binti Mohamad Razuan

Mohamad Zaiful bin Zainal Abidin

**Pereka Grafik**

Siti Zulaikha binti Zelkepli



ISBN 978-967-420-492-1



**Bahagian Pembangunan Kurikulum  
Kementerian Pendidikan Malaysia**  
Aras 4-8 Blok E9, Kompleks Kerajaan Parcel E,  
62604 Putrajaya.  
Tel: 03-8884 2000 Fax: 03-8888 9917  
<http://bpk.moe.gov.my>